

奈良と慶州 キョンジュ 千年の時を超えて

奈良市観光経済部観光戦略課

古都奈良

奈良市は、世界の各地から観光客がお見えになる人口約37万人の国際文化観光都市です。

1998年には、東大寺、春日大社、平城宮跡など8資産群が『古都奈良の文化財』としてユネスコの世界遺産に登録されました。

シルクロードを通じて伝わった大陸の文化が、8世紀の奈良の地で天平文化の華を咲かせ、今なお当時の面影を伝える文化財が現存します。特に正倉院には、シルクロードを通じて伝えられた朝鮮半島、中国、中国以西、南方等の、起源が明らかで学術的価値が高い宝物が多数保存されています。毎年秋に奈良国立博物館で開催される正倉院展は、内外から多数の来館者がある人気の高い展覧会となっています。

また、奈良公園には、春日大社の神鹿といわれる約1,100頭の鹿が生息し、人と共生する珍しい生態が観光客の人気となっています。

姉妹都市提携に至るまで

1970年4月15日、奈良市は韓国慶州市の申し入れを受けて姉妹都市提携しました。奈良市にとって初めての海外の都市との姉妹都市提携でした。

1967年5月に当時の朴寿大慶州市長から、姉妹都市提携についての正式な書面による打診があったことがきっかけです。その後、当時の両市市長が相互に訪問し、姉妹都市提携に向けた話し合いが行われ、奈良市では市民団体や市民の代表との協議を通じて提携に向けた環境が整いました。

そして、1970年、金漢擘慶州市長一行を奈良市にお迎えし、姉妹都市調印式が行われました。

慶州は8世紀当時、奈良と遣新羅使を通じて交

流があった新羅千年の都です。当時の友好関係を現代によみがえらせようという両市の思いがここに実りました。



慶州の世界遺産「仏国寺」

市民レベルの交流に発展

奈良・慶州が姉妹都市提携した1970年の6月には、奈良ライオンズクラブと慶州ライオンズクラブが、7月には奈良ロータリークラブと慶州ロータリークラブが姉妹クラブの調印をし、12月には奈良市観光協会と慶州地域観光協会が姉妹協会の調印を行いました。

翌年1971年には奈良の市民団体の代表等が会員となり「奈良・慶州友好親善委員会」が設立され、両市の交流を市民の立場から支援することになりました。

こうした交流の中から、民間団体の姉妹提携あるいはスポーツによる交流に発展していきました。

同年には、奈良市軟式野球選手団が慶州市を訪問し、第1回奈良市・慶州市親善軟式野球大会が開催され、スポーツ交流に先鞭をつけました。その後、スポーツ交流は、ソフトテニス、バドミントン、サッカー、ホッケー、ゲートボールなどへと拡大していきます。

同年10月には、奈良ワイズメンズクラブと慶州花郎ワイズメンズクラブが姉妹クラブの調印を行ったほか、慶州市で奈良市観光物産展を開催、12月には、奈良市で慶州市観光物産展を開催しました。

こうした交流がボーイスカウト、ガールスカウト、青年会議所、ユースホステル、少年少女合唱

団などの更なる市民レベルの交流につながっていきます。

姉妹都市交流の具体例

○「世界ダンスフェスティバル」参加

2011年には、「慶州世界文化エキスポ」が慶州市のエキスポ公園で開催されました。エキスポではさまざまなイベントが行われ、奈良市はその一つ、「世界ダンスフェスティバル」に出演しました。舞台では、民族舞踊や創作ダンス、ブレイクダンスなど、さまざまなジャンルの踊りが世界各国から招かれたチームにより披露されました。

本公演のために、奈良市は「粹蓮^{すいれん}」というダンスグループを奈良市の代表として派遣しました。クラシックバレエダンサー、コンテンポラリーダンサー、男子新体操選手、和太鼓奏者など、国内外の第一線で活躍する多彩なアーティストが「奈良」をテーマとして舞台を創り上げました。「粹蓮」のしなやかでダイナミックなダンスは、慶州市民やエキスポ関係者等、舞台を観覧した人々を魅了しました。新聞等メディアでも連日紹介され、奈良市と粹蓮のメンバーは現地ですっかり有名となりました。



世界ダンスフェスティバルに出演した「粹蓮」

○奈良市・慶州市・小浜市の三市交流

奈良市と慶州市、そして福井県小浜市は、三市間で相互に姉妹都市となっています。1970年に、奈良東大寺の「お水取り（修二会）」と小浜神宮寺の「お水送り」のご縁で、奈良市と小浜市は姉妹都市提携を行いました。1977年には奈良市が仲人役となり、慶州市・小浜市が姉妹都市提携しました。少年少女合唱団の交流、ソフトボール大会の開催など、三市で交流を深めています。

近日の交流では、慶州市行政団が毎年3月2日に小浜で行われる「お水送り」行事を視察し、その後、奈良の「お水取り」行事を視察されました。奈良と小浜が姉妹都市のご縁を結ぶことになった一連の行事を慶州にご紹介する貴重な機会となりました。

ました。

○奈良・慶州・西安姉妹三都市親善体育大会

1994年には奈良市が再び仲人役となり、奈良市の友好都市である中国西安市と慶州市が友好都市提携しました。

それが契機となり、2000年には奈良・慶州・西安三市の親善体育大会が開催され、アジアを代表する古都同士がスポーツ交流を行うという新たな姉妹都市交流の形態が誕生しました。

また、慶州市は2008年に中国の揚州市と友好都市提携し、その揚州市と奈良市は2010年に友好都市提携しました。

こうした二重三重の交流の輪が、日中韓三国やアジアにおける姉妹都市交流のあり方に一石を投ずることに なりました。



第5回姉妹都市奈良市慶州市国際親善ホッケー大会

国際交流の成果

奈良市は、現在、海外の六都市（韓国・慶州市、中国・西安市と揚州市、スペイン・トレド市、フランス・ベルサイユ市、オーストラリア・キャンベラ市）と友好・姉妹都市提携をしています。友好・姉妹都市提携のきっかけの多くは行政主導によるものでした。しかし、慶州市との交流が両市の市民の協力を得て理想的な市民レベルの交流に発展したおかげで、以後の姉妹都市交流にも「市民が主体となる」という道筋をつけることとなりました。

奈良市は、国際文化観光都市として世界に開かれたまちを目指しています。

こうした交流は、奈良市の知名度とイメージアップに貢献しているのはもちろん、市民の間に外国人に対するおもてなしの機運の醸成に貢献しています。

姉妹都市交流は、当初は国際交流のモデルケースとしての役割が期待されていましたが、慶州市との市民レベルの交流が見事に実を結び、今も理想的な姉妹都市として日韓両国の相互理解と友好関係の増進に寄与しています。